

平成28年度

美深町行政評価報告書

(平成27年度施策)

平成28年度行政評価（平成27年度施策）について、次のとおり報告する。

平成28年 8 月 31 日

美深町行政評価町民委員会 委員長 水 本 守

美深町行政評価委員会 委員長 今 泉 和 司

1 評価の対象

第5次美深町総合計画に基づいた31の施策を評価した。

2 評価の方法

218の事務事業からなる102の主要施策について、行政評価委員会から提出された評価調書及び補足説明によって、3部会において担当する施策を4段階で評価した。

※1 行政評価町民委員会 委員長 水本 守、副委員長 齊藤 宏行 (◎は部会長 ○は副部会長)	
福祉教育部会	◎佐竹 仁 ○堀 博明、深川 勇、鈴木正美、星 路子
産業経済部会	◎松本芳則 ○斎藤雄太、水本 守、菅野勝義、加川可名子
環境行財政部会	◎齊藤宏行 ○雪田明美、佐藤智三、荒木久恵、長谷川健一

※2 行政評価委員会（行政内部） 委員長 今泉和司、副委員長 渡邊英行 (◎は部会長 ○は副部会長)	
福祉教育部会	◎玉置一広 ○望月清貴、藤原裕子
産業経済部会	◎草野孝治 ○杉本 力、吉田克彦
環境行財政部会	◎羽野保則 ○川端秀司、阿部憲一

※3 三部会の評価施策数	
福祉教育部会	12施策 [41主要施策(96事務事業)]
産業経済部会	6施策 [17主要施策(49事務事業)]
環境行財政部会	13施策 [44主要施策(73事務事業)]

※4 四段階評価	
A評価 取り組んでいる	B評価 概ね取り組んでいる
C評価 一層の取り組みが必要	D評価 取り組みが見られない

3 評価の経過

美深町行政評価の実施に関する取扱要綱に基づき、平成28年7月28日に第1回行政評価委員会を開催以降、8月12日には第1回の行政評価町民委員会を開催し、次のとおり行政評価を実施した。

- ・ 5月15日 1次(事務事業)評価調書作成
- ・ 6月 3日 2次(主要施策)評価調書作成
- ・ 7月28日 第1回行政評価委員会
- ・ 8月12日 第1回行政評価町民委員会
- ・ 8月12日 第1回福祉教育部会 (2次評価結果確認作業)
- ・ 8月17日 第1回環境行財政部会 (2次評価結果確認作業)
- ・ 8月19日 第1回産業経済部会 (2次評価結果確認作業・合同会議)

- ・ 8月22日 第2回福祉教育部会（合同会議）
- ・ 8月22日 第2回環境行財政部会（合同会議）
- ・ 8月31日 第2回行政評価町民委員会
第2・3回各部会開催（3部会評価結果確認）

4 評価の結果

31施策のうちA評価は22施策 [71.0%]（前年度：22施策）、B評価は9施策 [29.0%]（前年度：9施策）、C評価、D評価はなかった（前年度もなし）。

このようなことから、第5次美深町総合計画に基づく施策のほとんどは、取り組みがなされている若しくは概ね取り組まれているものと評価できる。

主要政策ごとに区分した施策の評価結果の概要については、以下のとおり。

1 自然環境と調和する安全・安心なまち「美深」		2 資源をいかす活力に満ちたまち「美深」	
1 環境保全・環境衛生の推進	A (A)	1 農業の振興	B (B)
2 道路・交通網等の整備	A (B)	2 林業の振興	A (A)
3 住宅の整備	B (B)	3 商工業の振興	A (A)
4 計画的な土地利用	A (A)	4 観光の振興	B (A)
5 消防・防災体制の充実	A (A)	5 新たな地場産業の創出	B (B)
6 交通安全・防犯対策の推進	A (A)	6 就労対策・勤労者福祉の充実	B (A)
7 情報化の推進	A (A)		
8 消費生活対策の推進	A (A)		
3 次代を創る人を育てるまち「美深」		4 健康で明るく暮らせるまち「美深」	
1 幼児教育の充実	A (A)	1 健康づくり・医療の充実	B (B)
2 学校教育の充実	A (A)	2 子育て支援の充実	A (A)
3 家庭・地域教育の充実	A (A)	3 高齢者支援の充実	A (A)
4 社会教育の充実	A (A)	4 障がい者支援の充実	A (A)
5 芸術・文化活動の推進	A (B)	5 地域福祉の充実	A (A)
6 スポーツ活動の推進	A (A)	6 社会保障の充実	A (A)
5 みんなでつくる心かようまち「美深」		集 計	
1 住民主体のまちづくりの推進	B (B)	A評価	22施策 [71.0%] (22施策)
2 コミュニティ活動の充実	A (A)	B評価	9施策 [29.0%] (9施策)
3 男女共同参画の推進	B (B)	C評価	0施策 [0%] (0施策)
4 交流活動の推進	A (A)	D評価	0施策 [0%] (0施策)
5 行政経営の充実	B (B)	計	31施策

〈注〉 ()書きは前年度の評価結果。□は前年度よりも評価が上がったもの。

○ 自然環境と調和する安全・安心なまち「美深」

環境保全・環境衛生の推進では、新エネルギー普及事業について、びふか温泉の木質バイオマスボイラーの導入による温室効果ガス排出抑制効果や、美深中学校における太陽光パネル設置による環境教育への活用などにより事業成果が上がっていると評価する。

生活環境対策の充実では、有害鳥獣捕獲等事業において、必要な対策が図られており成果をあげている。今後、増加傾向にあるアライグマについての対策やマイマイガ等の害虫対策についても強化されたい。

また、ごみ処理体制の充実については、今後ごみ埋立処分場の広域化に向けて、減量化の取り組みなども含め住民周知を行いスムーズな移行に努められたい。

道路・交通網等の整備では、公共交通の充実において、仁宇布線のデマンドバスや町内のフレンドバスが高齢者の足として定着しており評価できる。今後も安定運行に努めてほしい。

また、農村部の公共交通の空白地域の輸送実証も行いながら、住民ニーズに応じた運行体系を模索するなど、住民の足を確保する取り組みについて評価できる。

美深町の政策ではないが、今後のＪＲ北海道の体制に不透明な部分が多いことから、宗谷線存続に向けて美深町としてもＪＲ北海道の動きを注視しながら必要な対策を強化されたい。

住宅の整備では、公営住宅等の建物の老朽化や劣化防止対策については、計画的な維持管理、改修等が実施され長寿命化が図られているものと評価する。今後も日常的に保守点検や定期点検等を行い、耐久性の向上等を図る改善に努め、修繕周期の延長や住宅等の長寿命化を図られたい。

ただし、公営住宅は、入居率の低い住宅もあることから、適正な戸数等を把握し集約化を図るなど、公営住宅のあり方も含め、今後の整備を進められたい。

移住住宅は、冬期間の体験利用が少ない状況である。積極的なＰＲと施設の充実を図り、本町への移住促進や、観光部門の交流人口の増加を図られたい。

計画的な土地利用では、市街地においては、住宅解体補助の効果もあり、危険家屋等の整理が進んでおり、景観と生活環境の改善が進んでいると評価する。

一方、放置家屋が減ったものの、一部には危険な建物もあることから、管理者への指導徹底とその対策について協議検討を進められたい。

公園・緑地の整備では、都市公園や農村公園を指定管理により良好に管理されていると評価する。

また、スキー場の景観整備後は、公園として管理されることになると考えるが、管理方法等について工夫しながら、町民の憩いの場や観光資源として活用されるよう期待する。

消防・防災体制の充実では、車両や装備、消火栓等の計画的な更新・整備が図られ、災害等による被害軽減及び人命救助活動により迅速に対処されるものと期待する。

消防団の充実では、一定の団員が確保され女性消防団員も増えるなど、消防防災体制の中核的組織として、住民の安心・安全の確保を果たしているものと評価できるが、一方で団員の高齢化も懸念されることから、継続的な体制を維持するためにも若い団員等の確保に努められたい。

交通安全・防犯対策の推進では、交通安全・地域安全運動など住民参加と警察や関係機関と連携し日常的、効果的な運動が推進されており評価できる。

交通安全対策の推進では、交通安全指導員を配置しながら、交通安全啓発や教室、各種イベント時の交通安全指導など、地道な活動ながら交通事故防止に成果をあげているものと評価する。

一方で、交通安全指導の継続した体制維持のために、交通安全指導員の新たな人材確保にも努められたい。

また、防犯対策の推進では、街路灯改修事業により防犯環境の改善と省エネ・害虫対策

が進んでおり、早期の全灯改修を進められたい。

さらに、美深警察署の分署化問題についても、地域の安心・安全を確保できる体制を維持できるよう美深町としても対策を講じられたい。

情報化の推進では、全町への高速情報通信網（光ファイバー）の整備により、多様な情報提供の充実が図られ、期待以上の成果があり評価できる。今後も様々な分野へ工夫して利用が図られるよう期待する。

消費生活対策の推進では、広域で専門相談員が配置され、悪質化・巧妙化する消費犯罪等に対する相談業務が整備されており評価する。

消費生活に関する情報提供・啓発活動の推進では、防災情報端末機を活用した迅速な情報提供がなされており、今後も身近な犯罪への防止対策に引き続き取り組むと共に、新たな消費生活課題へも柔軟に取り組まれない。

そのほか、広報誌やセミナー等の開催による定期的な啓発活動も継続されたい。

以上のとおり、『自然環境と調和する安全・安心なまち「美深」』における施策評価は、A評価が7施策、B評価は1施策であり、全8施策について良く取り組まれていると評価する。

○ 資源をいかす活力に満ちたまち「美深」

本町の基幹産業である、**農業の振興**については、きめ細かな施策が展開されており、引き続き実効性のあるものとなることを期待している。

特に、農業経営者の高齢化と後継者不足は喫緊の課題である。担い手の育成・確保については、農業経営継承組織との連携によりスムーズな経営継承が図られているほか、農業研修生等宿舍も有効活用されている。

また、農業体験実習生が新規就農を希望し、町内に就業するなど、今後の担い手確保につながるものと期待しており、持続ある美深農業の確立を目指すべく、関係機関・受入指導組織がより連携し推進に努められたい。

さらに、畑作振興事業では、輪作体系の確立、南瓜の品質向上対策など生産性の向上へ向け今後も継続した支援が必要である。

農業とあわせて、**林業の振興**も本町の基幹産業であり、健全な森林は、林産業の振興だけでなく森林の持つ多面的機能である地球温暖化防止や治水機能強化など果たす役割は極めて大きい。しかしながら、その効果は数値や実際の目視は確認できなく事業評価は難しい。

また、森林の施業サイクルは、造林～下刈り～枝払い・間伐～伐採～造林という50年から80年の長きにわたり、後世に引き継ぐ事業的な要素がある。そうしたなか森林所有者の負担だけではなく公共補助等を投じて事業を推進していくことは必要不可欠である。

林業の振興は、地域支援活動・林業経営強化事業等の計画から未来をつなぐ森づくり推進・林道網整備等を展開し、効率的な事業の実施が行われており、林業担い手対策や緑化意識の高揚など全ての事業が一体となって事業展開していくことが重要であり、今後も全般的な事業の推進を期待する。

商工業の振興においては、商工会に対する支援は特に充実していると高く評価する。

平成27年度については2回のプレミアム商品券発行事業、新たに子育て応援事業が行われ商店街の活性化が図られてきている。

さらに、快適な住まい環境と商工業振興事業については店舗近代化や住宅リフォーム等の補助により地元建設業や関連業界などの事業活動が活性化されるとともに、住環境の向上が図られてきている。

また、企業誘致促進事業については、商工業担い手支援条例など活用が図られてきているが、企業を誘致する際、慎重な判断を行う必要がある。

観光の振興は、観光協会を中心に地域の観光情報が広く発信されてきている。

さらに、新たに美深町観光大使が就任され各種イベント等において幅広くPRが行われている。

しかし、美深町の観光拠点である道の駅について建物の老朽化や入り込みが減少してきており、観光事業化が難しい道北地域ではあるが、魅力ある観光資源を活用するとともに、びふかアイランド一体として、観光の推進が図られることを期待する。

新たな地場産業の創出は、美深町商工会青年部において「かぼちゃ甘酒」が新たに商品開発され、さらにJA青年部と共催で「地域農産物研究発表会」を開催するなど町の活性化が図られてきている。今後も新たな特産品の開発、定着化や産業化につながるよう期待している。

また、商工業担い手支援条例では、新規開業、事業承継、新たな雇用の創出が図られ、商工業の振興につながっている。

就労対策・勤労者福祉の充実においては、職業能力向上支援事業での失業者や求職者の継続的な希望もあるため、今後も継続的な助成による支援が必要である。

しかし、勤労者福祉資金については、市中金融機関の利率低下や、多様なキャンペーン影響により利用者は少ない状況となってきたが、労働者の厚生事業として今後も利用促進に向け検討すべきである。

以上のとおり、『資源をいかす活力に満ちたまち「美深」』における施策は、A評価が2施策、B評価が4施策であり、全6施策はほぼ取り組まれていると評価する。

○ 次代を創る人を育てるまち「美深」

幼児教育の充実では、幼児教育の充実、子育て支援事業ともに、保護者のニーズに即した運営が行われており高く評価できる。時代背景の変化、保護者の就労状況の多様化に対応する柔軟な取り組みが行われており、現状のサービス継続を期待する。

学校教育の充実では、いずれも良く取り組まれていると評価する。美深高等学校の存続問題に対しては、卒業生に対する新たな奨学金制度創設は高く評価でき、今後も魅力ある学校のイメージづくりに期待したい。また、昨年度開始した学校給食は児童生徒や先生の評判も良好であり、初年度としては非常に良く取り組まれている。

家庭・地域教育の充実では、子育てに不安を抱えている家庭が増えており、親子のふれあいの場づくりや地域ぐるみで育てる意識は浸透している。また、共働き家庭が増えるなかで、児童館事業や放課後子ども教室では、多様なメニューづくりや内容を工夫する取り組みがなされ評価できる。

社会教育の充実では、現在、社会教育主事は不在であるが、人材の資質向上を図りながら資格者の確保に繋げることにより、より良い事業展開が期待できる。社会教育事業は全体的に良く取り組まれており、今後も評価が維持されるよう期待する。

芸術・文化活動の推進では、COM100文化ホール事業の内容充実が図られており、町内外から高く評価されている。COM100は美深町が誇れる施設であり、町外からの鑑賞客も多いなど利用実績からも高く評価できる。

郷土資料室や伝承遊学館は、展示物の整理や入替えなど見せ方の工夫に課題はあるが、COM100では様々な活動が活発に行われており、全体的な評価はA評価とする。

スポーツ活動の推進では、こどもスポーツ未来基金は、限られた予算のなかで多くの子ども達に有効に活用されており、青少年スポーツの振興に大きな役割を果たしている。今後も、十分な資金が確保されるよう期待したい。

エアリアル事業は、大会の見せ方を工夫した初の試みとして、観光協会との連携によるキッズパークを開催し若い世代の親子が来場した。多くの町民にエアリアルを理解してもらうための方法として、有効な取り組みであると感じた。

体育館管理において、寒さ対策など一部改善された部分もあるが、さらに利用しやすい施設となるよう、指定管理者と連携した管理運営に期待したい。

以上のとおり、『次代を創る人を育てるまち「美深」』における施策評価は、全6施策中全てにおいてA評価となり、全体的に高い評価と判断する。一部の事業において継続課題は見られるが、全般的に多種多様な事業に取り組まれており、今後もこれらの事業の継続を期待したい。

○ 健康で明るく暮らせるまち「美深」

健康づくり・医療の充実では、各種検診事業は専門職の人材確保が難しく、厳しい人員体制の中でもきめ細かく取り組まれていることは高く評価でき、今後も受診率向上に向け努めてほしい。また、安心できる地域医療体制の確保のため、美深厚生病院への支援は必要であるが、町民の意見、苦情等も聞かれることから、改善指導も継続されたい。

また、町広報誌の「厚生病院だより」を活用し、派遣医師の専門分野などを上手くPR願いたい。

子育て支援の充実は、特に良く取り組まれており、町民からも優れていると評価が高い。今後も質を落とさないよう取り組んでほしい。また、子供が生まれた時の施策についてインパクトのある事業展開が図られるよう、引き続き期待したい。

少子化問題は、国策としての課題ではあるが、若い世代の縁結びなども行政の課題として取り組んでいただきたい。

高齢者支援の充実は、多種多様に渡る分野で、大変よく取り組まれており、老後も安心して美深町に住み続けることができると判断し、事業の維持継続を要望したい。現在取り組まれている家族介護支援事業は、在宅要介護3以上の方の家族負担も大きいことから、適宜、事業内容の見直し改善を検討願いたい。

高齢者の中には「びふか温泉」の利用を楽しみにしている方も多いが、一部、施設環境、サービス面での苦情が聞かれるので改善されたい。また、高齢者の利用料を見直す際は近隣自治体や「ほっとプラザ☆スマイル」と整合性を図って検討願いたい。

障がい者支援の充実は、他町村と比較しても目に見えて、障がい者支援に取り組んでおり、町全体で協力している体制が理解できる。特別支援学級から高等養護学校、のぞみ学園やグループホームと社会人になっても美深町で働くことのできる体制づくりは高く評価でき、今後も継続して取り組んでもらいたい。

地域福祉の充実は、充実していると評価する。今後も質を落とさないよう引き続き取り組んでもらいたい。

社会保障の充実は、事務処理や相談対応など、スピーディーに処理されている状況も見受けられた。国の制度の部分はすべてしっかり取り組まれていると評価する。

以上のとおり、『健康で明るく暮らせるまち「美深」』における施策評価は、A評価が5施策、B評価は1施策、全6施策を通して高評価であり、維持継続を期待する。「福祉の町」として町民ニーズに対応し、大変良く取り組まれていると評価する。

○ みんなでつくる心かようまち「美深」

住民主体のまちづくりの推進では、地域おこし協力隊員を確保し、それぞれ専門性をもった事業の推進を担っており、今後も活躍に期待している。

地域人材育成事業では、地域リーダーの育成のため民間と町職員との研修制度は有意義なとりくみである。今後も、様々な手法を研究しながら、次代を担う若い世代の地域リーダーの育成に努められたい。

広報広聴活動の充実では、広報誌による定期的な行政情報提供のほか、防災情報端末機を活用したタイムリーな情報発信など多様な手段の活用により取り組まれている。

町のホームページでは、随時更新がなされているが、さらに見やすい工夫や音楽を流す工夫など新しい取り組みも検討されたい。

コミュニティ活動の充実では、一定の支援により自治会活動の推進が図られているが、高齢化やリーダー、担い手不足は各自治会共通課題となっている。今後の大きな課題として行政の指導も期待すると共に、自治会との連携を図りながら取り組む必要がある。

地域集会施設等の充実では、老朽化による修繕やコミュニティ助成事業を受けて備品の整備など継続して対応されており、よく取り組まれていると評価する。

しかし、地域住民の高齢化が進む中で、それらに対応した施設の整備も求められてきており、財政的に厳しいが、今後に向けて検討していく必要がある。

男女共同参画の推進では、男女共同参画意識の高揚において、行政の各種委員や自治会行事などで女性参加は以前より多く見られることから、意識は高まりつつあると評価できる。男女共同参画社会の促進では、一層の啓発活動の充実と女性の積極的な参加を期待する。

交流活動の推進では、物産PR販売をはじめとする地域間交流活動の推進やふるさと美深会活動において、若い世代の町民が新たに関わる場面も増えてきている傾向にある。各地に住まいする本町出身者等との人的ネットワークづくりを一層推進されるよう期待する。

一方で、東京及び札幌のふるさと会における若い人の参加が進んでいないことから、今後のふるさと会のあり方や美深町出身者の加入促進をどう図っていくか検討が必要である。

また、国際交流活動の推進では、アシュクラフト以外の交流についても、様々な機会・手法を活用して推進する必要がある。

行政経営の充実では、厳しい財政状況下にあることから、役場庁舎の改修について先送りされているが、築53年を経過し老朽化が進行しており耐震性も十分ではない。災害時の住民情報の保全や本部機能を果たす必要があることなどから、将来の財政見込みを見据え、災害に強い庁舎の確立に向けた計画を推進する必要がある。

OAシステムに関しては、インターネットを通じ悪意をもったサイバー攻撃が増えていることから、継続的に対策を強化するとともに、職員の研修などによりセキュリティの感度を上げていく必要がある。

健全な財政基盤の確保では、収納率向上の対策として、時代に合わせてカード決裁やインターネット納付など多様な方法で納税ができるよう納税環境の整備を検討されたい。

以上のとおり、『みんなでつくる心かようまち「美深」』における施策評価は、A評価が2施策、B評価は3施策、全5施策については概ね取り組まれていると評価する。

以上、平成27年度行政評価報告とする。

美深町行政評価報告書

付属資料

